

囲炉裏 煙る古民家

四国中央市 切山 真鍋家の囲炉裏

国指定重要文化財である真鍋家住宅。場所を変えずに江戸時代中期頃から代々継承されてきた。その間取りは中ねま三間取りとよばれ、「にわ」（土間）にそって「なかのま」・「おく」、その奥に「ざしき」がある。「なかのま」にある囲炉裏は心臓部といえ、そこから出る煙には、柱を丈夫にし、防虫効果がある。また、空気が対流するように家屋が設計されている。真鍋家 16 代目当主の真鍋潤氏は、地元の広報活動として勉強会や演奏会の実施を支援している。真鍋氏の意向で、訪れる人々に対して真鍋家は驚くほど開放されている。真鍋家に関する技術や知恵を持続的に継承することや、開かれた文化財である真鍋家の活用方法が今後の課題である。